2023年秋年末闘争・組織拡大
CTG 建交労道本部闘争速報
2023年11月22日／第8号
〒060-0909 札幌市東区北9条東1丁目北海道労働センター2F
TEL011-711-7377
FAX011-711-7388
e-mail／ctg.hokkaido@gmail.com

北海道鉄道本部が第24回定期大会

北の鉄路守る強い思い

11月18日に北海道鉄道本部の第24回定期大会が開催され、1年間の活動を振り返るとともに新年度の運動方針を決定しました。大会には代議員・役員など19名が参加して職場の状況や地域でのとりくみが報告され、ＪＲ北海道をとりまく問題についても意見交換がおこなわれました。討論では、退職した若年社員が打ち明けた将来への不安、グループ全体で人手不足が深刻な状況になっており運輸サポートに発注した作業がキャンセルされるなど安定輸送が心配になっていることなどの発言がありました。また、札幌市の高齢者福祉パスのＪＲでの利用拡大のとりくみについて高齢者団体から大きな期待が寄せられていることも報告されました。執行部から提案された経過報告と活動方針は満場一致で確認されました。大会の締めくくりにおこなった「団結がんばろう」を唱和する大会参加者の姿にナッパ服を羽織った雄姿が重なり、北の鉄路を守るためにＪＲ北海道の処遇改善と政府の責任追及を粘り強くたたかう強い思いが込められていました。

役員体制は、執行委員長に苫小牧支部・竹田吉宏さん、書記長に苗穂支部・最上暢さん、副委員長は空席で執行委員に岩見沢支部・高橋勲さんと小樽支部・加藤豊さんが選任されました。

ＪＲ北海道 上期収支報告・線区別収支報告など

11月13日にＪＲ北海道の上期収支状況と線区別収支報告がおこなわれ、コロナ禍前の2019年実績まで回復しつつあり線区によっては乗車率・収益率ともに超える状況が報告されました。これは人手不足の中で安全・安定輸送のために昼夜を問わず業務に従事している社員の奮闘と社員を支える家族の後押しの賜物です。コロナ感染症の５類への移行によってインバウンド客をはじめ国内移動が平常に戻り、コロナ禍によって長期にわたり我慢を強いてきたものから一気に活動がはじまったと受け止められます。年末年始についても円安の関係から国内旅行の需要がコロナ禍前を大きく超える状況であり、引き続く利用客拡大に期待がもてるものです。

建交労北海道鉄道本部は、これらの状況から年末一時金交渉では物価高騰により日々の生活を切り詰めている社員・家族にゆとりを与え、寒冷地手当の支給がない非正規社員については暖房料金の大幅値上げにより苦しい生活を送っており、特段の配慮の必要性を強く求めていくことにしています。

燃料手当・年末一時金闘争

釧路地域支部太平洋運輸分会 は10月19日に燃料手当について妥結しました。妥結内容は、総支給額284,986円（2,250.9リットル×126.61円＝釧路市内の灯油平均価格）で、10月に３分の２の189,990円、２月に平均価格を再調整して、残り３分の１を支給となります。

小樽一般労組光合金支部 は10月27日に年末一時金要求を提出しました。要求は「２か月分」です。

札幌合同支部リヴィノールシステム分会 は11月６日に年末一時金要求書を提出しました。要求は、正職員3.0か月分、準職員2.0か月分、パートナー職員2.0か月分、継続雇用職員一律３万円、アルバイト職員一律３万円です。

各職場組織の「燃料手当（寒冷地手当）」と「年末一時金」の状況をお知らせください